

台風・大雨に対する農作物等の事前・事後対策 (6月上旬～6月中旬)

1 水稲（早期・普通期）

(1) 事前対策

- ア 排水路等を点検・整備し，長時間の冠水，滞水防止に努める。
- イ できるだけ深水にする。

(2) 事後対策

- ア 冠水した水田は，速やかに排水する。
- イ 水田や用排水路等の土砂，木切れ等は，できるだけ早く取り除き，生育に支障がないようにする。
- ウ 高潮などで海水が流入した水田は，速やかに排水し，かけ流しを行う。
- エ 特に，早期水稲においては，病虫害（ウンカ類，いもち病，白葉枯病）の発生に注意し，必要に応じて防除を行う。

2 畑作共通

(1) 事前対策

- ア 排水溝を整備し，滞水防止に努める。

(2) 事後対策

- ア 滞水したほ場は，速やかに排水する。
- イ 潮風害が懸念される場合，散水施設のあるほ場では，台風通過後，できるだけ速やかに散水する。

3 さつまいも

(1) 事後対策

- ア 畝の土が流出したほ場は，追肥や培土を行う。また，ほ場内に滞水しないように，徹底した排水対策を行う。
- イ 定植後35日を過ぎたほ場では，殺菌剤によりサツマイモ基腐病の防除を行う。また，生育初期の異常株は，早急に抜き取りほ場外へ持ち出す。

4 さとうきび

(1) 事後対策

- ア 株元が露出したり倒伏した株は，可能であれば引き起こし，必要に応じて追肥や土寄せを行う。

5 野菜

(1) 事前対策

- ア 強風による被害を最小限となるよう、防風垣、防風ネット等を補強する。
また、かぼちゃについても、防風ネット等で被覆し、しっかり固定する。
- イ 収穫期に近い野菜は、収穫する。
- ウ 育苗中の苗は、安全な場所に持ち込むか、べたがけ資材等でトンネル被覆する。
なお、べたがけ資材等は、できるだけ低く設置し、強風で苗を傷つけないように留意する。
- エ つる性のきゅうり、にがうり等は、「つる下げ」を行い、べたがけ資材等で被覆し、しっかり固定する。「つる下げ」ができない場合は、支柱やネットが倒れないように、しっかりと固定する。
- オ 根深ねぎは、土寄せやテープ等を張り、茎葉の折損、倒伏を防ぐ。

(2) 事後対策

- ア 被覆資材等は、直ちに除去する。
- イ 茎葉の折損部からの病害侵入を防ぐため、直ちに殺菌剤の散布を行う。
- ウ 草勢の回復を図るため、葉面散布または化成肥料による追肥を行う。
- エ 室内に持ち込んだ苗は、速やかに外へ持ち出して広げる。
- オ にがうり、きゅうり等で「つる下げ」を行ったものは、台風通過後、速やかに「つる上げ」を行う。

6 花 き

(1) 事前対策

- ア ほ場及び施設周囲の側溝、排水溝の点検・整備を行う。
- イ 定植直後の草丈の低いものは、べたがけ資材で被覆固定する。
- ウ 仕立て直しが可能な花き類は、フラワーネットや支柱を外し、剪定するか倒伏させて、べたがけ資材で被覆固定する。
- エ 収穫直前の切り花は、台風接近の様子を見て、やや硬めでも収穫する。
- オ 鉢物類は鉢を寄せ、べたがけ資材で被覆固定する。大鉢は同一方向に倒す。
- カ 露地電照栽培やビニル除去後の施設栽培では、電照用の電球を外す。
- キ キク母株は、可能な限り採穂・冷蔵し、残った株を防風ネットやべたがけ資材で被覆し、しっかり固定する。
- ク 露地のキク、ソリダゴ等は、支柱を補強（打ち込み直し、本数増加）し、フラワーネットがずれ落ちないように支柱に固定する。
- ケ 停電が予想される場合は、発電機と燃料を準備する。

(2) 事後対策

- ア 生育中の花き類で倒伏したものは、風が弱まり次第、直ちに株の立て直しを行う。
- イ 仕立て直しが可能な花き類は、整枝や株の切り戻しを行い、草勢の回復を待つ。
- ウ 株に泥が付着している場合は、速やかに水で泥を洗い流す。
- エ 茎葉の折損部からの病原菌侵入を防ぐため、速やかに殺菌剤の散布を行う。
- オ ビニルや遮光資材を被覆し、強い光や降雨から植物を守る。
- カ 外した電球を速やかに取り付け、電照やタイマー、冷蔵庫など電気設備の再点検

を行う。

キ マルチ栽培で滞水したほ場では、マルチのサイドをめくり上げ、土壌の乾燥を促す。

ク 鉢物類は被覆固定したべたがけ資材を外し、元の位置に戻すとともに、倒した鉢は速やかに起こす。

ケ 露地のキク、ソリダゴ等は、軽く中耕・土寄せを行い、薄めの液肥を施用する。

コ 潮風害が懸念される場合、スプリンクラー等で、台風通過後、速やかに散水する。

サ 停電が続く場合は、キクでは発電機を使って電照を行い、花芽分化を防ぐ。

7 果 樹

(1) 事前対策

ア 防風樹や防風施設の点検・整備を行う。

イ 幼木や若木は倒伏しやすいので、支柱を立てて補強する。

ウ 高接ぎ樹等は接ぎ木部から裂けやすいので、支柱に誘引する。

エ 病害発生が懸念がある場合は、予防散布を行う。

オ マンゴーやパッションフルーツ、ハウスみかんでは、収穫中または収穫を控えていることから、ハウスバンド等の締め直しやビニルの補修を行い、ハウス全体をしっかり固定して、ハウス内に雨水が流入しないように対策を行う。

また、事前に天井ビニルを外す場合、施設は防風ネット等で被い、保護に努めるとともに、大量の水がほ場内に滞水しないように、徹底した排水対策を行う。

(2) 事後対策

ア 倒伏樹は速やかに起こし、株元に土入れして再倒伏を防ぐ。

イ 枝裂けや枝折れした場合は、切除して癒合剤を塗布する。

ウ 病害発生が懸念がある場合は、台風通過後、速やかに殺菌剤散布を行う。

エ 樹勢低下が懸念される場合は、樹勢回復を図るために葉面散布を行う。

オ 潮風害が懸念される場合、散水施設のあるほ場では、台風通過後、できるだけ速やかに散水する。

8 茶

(1) 事前対策

ア 茶園に防風ネットを設置している場合には、保守・点検を行う。

イ 幼木園では、枝の折損や樹の倒伏を防ぐため、状況に応じて徒長枝を剪定する。

ウ 防霜ファンの支線等を外している場合には、元に戻す。

エ 製茶工場の電気施設及びガス・重油保管施設は、電源や元栓を確認する。

また、煙突や排気口・換気扇等の補強・整備を行うとともに、工場内を見回り、電子機器等が濡れないよう対策を行う。

(2) 事後対策

ア 生育ステージで芽が柔らかいほ場では、殺菌剤を散布する。

イ 肥料が流亡している可能性があるほ場は、施肥を行う。

- ウ 幼木園で、株元の土が流亡したり、茶樹が横倒しになったりしている場合には、速やかに起こし、株元に土寄せを行って踏み固める。
- また、欠株が生じた場合は、秋以降に補植を行う。
- エ 潮風害が懸念される場合、散水施設のあるほ場では、台風通過直後、できるだけ速やかに散水する。

9 葉たばこ

(1) 事前対策

- ア 乾燥施設の状況に応じて、収穫可能な葉たばこは、早急に収穫を行う。
- イ 乾葉の保管場所の点検を行うとともに、乾葉にシート等を被覆する。
- ウ 収穫葉を乾燥作業中の施設では、停電による品質低下や腐敗が懸念されるので発電機を準備する。また、乾燥機の燃料を十分に確保する。

(2) 事後対策

- ア 乾葉の保管場所の点検を行うとともに、濡れた乾葉がある場合は、仕分けして再乾燥する。
- イ 落葉があった場合は、労働力、乾燥施設の稼働状況を考え、出荷価値のある葉は早めに拾って洗浄し乾燥する。
- ウ 潮風害が懸念される場合、散水施設のあるほ場では、台風通過直後、できるだけ速やかに散水する。

10 畜産

(1) 事前対策

- ア 畜舎の補強や、物が飛散しないよう格納、固定する。
- イ 畜舎周辺の排水溝の清掃、点検を早めに行う。
- ウ 給餌、搾乳、通風、換気等電力施設・機械を利用しているところは、停電が懸念されるので発電機を準備する。

(2) 事後対策

- ア 台風通過後は、直ちに畜舎内外の排水を行って消毒する。
- イ 今後も生育が見込まれるトウモロコシ・ソルガム等は、ほ場の排水を行い追肥を行う。

11 園芸作物のハウス等農業施設の保護

(1) 防風垣や防風ネットの設置と補強を行う。

(2) ハウスは、杭の補強とハウスバンドの締め直しを行い、ビニルの破れた箇所は補修し、ハウス全体をしっかりと固定する。

- また、強風が懸念される場合は、ビニルを剥ぎ取り、作物は防風ネット等でべたがけを行い、保護に努める。

12 農業機械の保護

- (1) 大雨により浸水などの被害が見込まれる場所から，農業機械を待避させる。
- (2) 泥水に浸かった農業機械は絶対にスイッチを入れないこと。農機販売業者等に点検を依頼する。